

# 総入れ歯は使用歴が大事

主治医と相談し何度でも調整を

オーラルケアステーション永田歯科

永田 真一（歯科医師）

Vol. 18  
Medical life advice

## ～入れ歯のはなし～

医療技術の進歩、および新たな病理学的解明に伴い、以前ならば抜いていたような歯でも最近では保存できるようになり、なるべく残す、一本でも多くの自分の歯をかむという考え方に変わってきました。



しかしながら、不幸にして抜歯しなければならなくなった場合、そのあとどうするのか患者さんは知っておく必要があります。主治医とよく相談し、納得してから抜歯にかかることをお勧めします。

さてその抜歯後の処置法ですが、大きく三つあります。

一つはブリッジというものです。これは一本もしくは二本連続して喪失した場合で、その両端の歯が健全なとき、その歯を削って金属をかぶせ喪失部にダミーの歯を作り、ろう着して連結するもので、最もよく用いられます。喪失部位によっては両端のみならずもっと多くの歯を削ったり、時に保険適用外になったりすることもありますので主治医にお尋ねください。

二つ目はインプラントとよばれるもので、アゴの骨の中に人工的なネジを埋め込んでその上に歯を作る方法です。これは保険適用外ですので比較的高額医療になります。

最近、このインプラントを希望される方が多くなりました。しかし実際の適応症は少なく、骨の幅を増やしたり、粘膜の形態を変えたりという前処置が必要なことが多いようです。

ここで知っておいてもらいたいことは、すべてが人工的な歯ですから、むし歯にはなりません。が、歯周病にはなる可能性があるということです。何の手入れもしないでも永久的な歯というわけではないのです。メンテナンスが非常に大切になってきます。

三つ目は、いわゆる取り外し式の入れ歯です。多数歯喪失のときに用いられますが、こ

で総入れ歯について少し触れます。今まで入れ歯を入れたことがないが今度総入れ歯になった、という方はほとんどおられません。それまでに大なり小なり入れ歯の使用経験のある方が多いです。

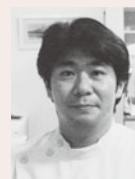
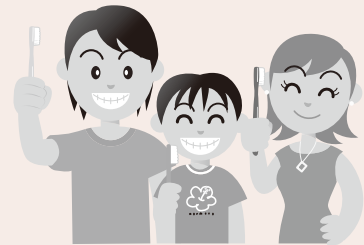
実はこの<使用歴>がとても重要なのです。入れ歯にはその隅から隅まで役割があります。したがって理想的には大きな入れ歯ほどいい入れ歯なのです。かむ力をできるだけ広い面積で支えた方が粘膜や骨にとってやさしいわけですが、ここで<使用歴>が問題になります。

いままで大きな入れ歯を入れたことがない人にしてみれば違和感が先走ってしまい、いくら理想的ではあっても現実的でなければ入れていられません。歯科医師の考えるいい入れ歯と患者さんの考えるそれとはギャップがあるわけで、歯科医師はそこが知りたいのです。

そのためにも今まで使用していた義歯を見てもらい希望があればどんなことでもご相談ください。

どうしても無理なことは仕方がないにしても、少しでもいい義歯を作りたいとすべての歯科医師が思っているはずですよ。

遠慮せず、面倒がらず、何度も調整に行ってください。それが患者さんと歯科医師との信頼関係を育てるのですから。



永田 真一

1962年生まれ。  
鹿児島大学歯学部卒業  
オーラルケアステーション  
永田歯科院長

オーラル ケア ステーション  
Oral Care Station 永田歯科

〒892-0828 鹿児島市金生町7-8 鹿児島金生町ビル1F  
TEL:099-225-5500 FAX:099-225-5516